

モンゴルを通して考えよう

～地球的課題・自分たちの生き方～

高知県立高知南高等学校 担当教科/英語

山崎 功子

- 実践教科: 国際理解・国際教養・英語理解・英語II・地理B(T・T)
- 時間数: 6時間(国際理解のみ2時間配当)
- 対象学年: 高校1・2・3年生
- 対象人数: 120名

授業実践のねらい

- 途上国の現状・地球的課題について知る
- 豊かさ・発展 について考える
- 自分たちのライフスタイルを見直し、行動変容につなげる。

授業実践の構成

| 時間 | テーマ・ねらい | 主な学習活動 | 使用教材等 |
|-----|------------------------------|------------------------------------|--|
| 第1時 | モンゴルってどんな国 ～事前アンケートに照らして～ | 事前アンケートの結果と照らし合わせながら、モンゴルの基本情報を知る。 | ワークシート 資料1 パワーポイント 資料2 モンゴルの紙幣 モンゴルのチーズ モンゴル語の名刺 デパートの袋 |
| 第2時 | モンゴルを通して考える地球的課題 ・私たちの生き方 | モンゴルと日本の生活を比較しながら、発展と豊かさについて考える。 | パワーポイント 資料2 |

授業の詳細

事前準備

授業を行う前にワークシート [資料1](#) に取り組んでもらった。項目は「モンゴルのイメージ」「位置」「気候・風土」「言語」「政治」「経済」「産業」「住居」「食事」「服装」「学校」「疑問」。ワークシートは回収し、生徒の答えをまとめ、生徒の描いた住居や服装などのイラストをパワーポイントに取り込んでおいた。

第1時

まず、授業のねらいや研修の趣旨について話し、事前に実施したワークシートへの生徒の答えと照らし合わせながら、パワーポイント [資料2](#) を用いてモンゴルに関する基本的な情報を共有していった。

和田 加
報告書 ①

大西 結加
報告書 ②

杉田 亮介
報告書 ③

曾根 健介
報告書 ④

池田 やよい
報告書 ⑤

今村 加代子
報告書 ⑥

山崎 功子
報告書 ⑦

石原 康代
報告書 ⑧

生徒の反応

○「イメージ」…「草原」「ヤギ」「朝青龍」「チンギス・ハン」など、自然・相撲・歴史・動物などが出た。「五畜」については「豚」「鶏」などの答えもあった。

○「位置」…日本も入れて地図を描かせたが、ほとんどの生徒がだいたいの位置を知っていた。国土の大きさについては知らなかった生徒が多かった。



○「気候」…「草原」「寒そう」などのイメージが多かったが、国土が広く多様性があることや、最低気温の低さを示すと驚いていた。また、異常気象や環境破壊の原因には経済発展や先進国のライフスタイルが関わっており、我々も無関係ではないという話にはショックを受けた生徒もいたようである。

○「言語」…中国語に近いと考えている生徒が数名いた。モンゴル語の表記が入った名刺やウランバートルのデパートの袋を見せながら、古来の文字と、現在の文字の両方を提示した。挨拶の表現の紹介では、特に国際科の生徒が発音に興味を示していた。



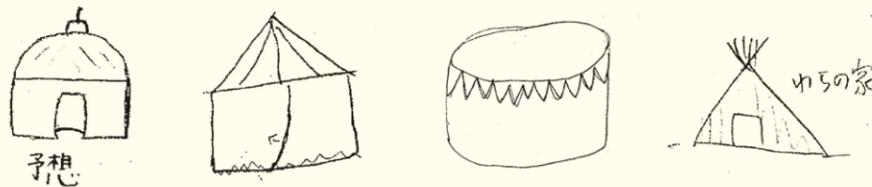
モンゴル語の表記が入った名刺

○「政治」…「分からない」がほとんど。「王様がいる」と思った生徒も複数いた。地理の授業では中国について学習しているところだったので「共産主義」という言葉が出ていた。

○「経済」…「分からない」がほとんど。モンゴルの紙幣に大きな関心を示していた。「市場経済への移行=良いこと」と考えがちだが、それによって貧富の差が生まれていることを知り、新しい見方を得られた。

○「産業」…「牧場」「酪農」という言葉も出てきたので、モンゴルの「放牧」について確認した。「地下資源ビジネス」について知っている生徒はいなかった。

○「住居」…「テント」と答えた生徒が数名。「ゲル」という言葉を知っていた生徒も。イラストを描かせたが、ゲルに近い絵を描いていた生徒も多かった。ゲルのイメージが強いらしく、ウランバートル中心部の集合住宅の画像に驚いている生徒が多かった。「意外と発展している」と感じたようである。



○「食事」…「肉」「牛乳」「チーズ」との答えが多数。ただし、それらを主食としていることには驚いていた。ここで「アーロール」を試食させた。ほとんどの生徒が「おいしくない」という反応を示したところで、日本から持っていた魚の干物へのモンゴル人の反応について話し、世界の食文化について偏見のない見方を持つことの大切さについて考えた。

○「服装」…イラストを描いてもらったが、様々。モンゴルでも多様な民族衣装があることを示した上で、私たちがゲルで着させてもらったデールの画像を見せた。日本の着物との共通点・相違点について話し

合った。また、都会での若者のファッションの画像を通して、途上国に対するステレオタイプのイメージを変えることができた。



○「学校」…「日本と同じ」と答えた生徒が比較的多く、「なぜ二部制・三部制なのか」という質問にも、すぐに答えられなかった。生徒たちにとって、自分たちの学校生活が「当たり前」であり、外国の学校について具体的な知識は少ないことが分かった。実際の生徒の様子画像をもっと見せてあげられたらよかった。

～感想より～ 「思っていたのと違って驚いた。」「全然知らなかったことが多くてびっくりした。」「同じアジアの国でも、日本と生活の違いが大きかった。」「同じアジアの国でも、日本と生活の違いが大きかった。」「知識がたくさん増えた。」「モンゴルに行ってみたくなった。」「外国のことを知るの嬉しい楽しい。」

【所感】

生徒たちは、予想以上に興味を持って授業に参加していた。画像や実物に触れながら、外国について新しい知識を知ることは、新鮮で楽しかったようである。モンゴルに対して「草原」「遊牧民」のイメージだけしかなかった者が大半であったと思われるが、都市部の様子を見たり、新しい知識を得たときの反応を見ていると、「知る」ことの大切さを改めて感じた。英語の授業では、様々な地域・文化を題材として取り扱っているが、視覚教材や実物を使って興味を持たせ、多文化理解へとつなげていくように心がけたいと感じた。

第2時

第1時でモンゴルの基本情報を知った上で、その現状を通じて、テーマごとに途上国の抱える課題について学ぶとともに、地球的課題および日本という国や自分たちの生活がどうあるべきかについて考える時間とした。「道路・交通」「水」「エネルギー」「所有物の量」「ゴミ」「経済発展と本当の豊かさ」「教育」について、生徒に質問を投げかけ、ペア活動を取り入れながら共に考えた。また、モンゴルで出会った現地で活躍している日本人の言葉を紹介し、国際協力にはどのような考え方・態度が必要かについて話し合った。

生徒の反応

～感想より～

○驚き、気づき… 「日本とは全然違ってびっくりした。」「貧しい国ということを知って知った。」「今の自分の生活が幸せなんだと思った。」「日本は恵まれていることが分かった。」「自分たちはぜいたくだと思った。」

○ライフスタイル… 「日本は無駄に電気を使いすぎだと思った。」「もっと水や電気を大切にしなければいけないと思った。」「自分たちの暮らしている先進国から他の国がいろいろな影響を受けているんだと知り、もう少しエコ活動をしていきたいと思った。」「自分の暮らしをいろいろ考えさせられた。」「水や物を大切にしているところを日本も見習うべきだと思った。」

○途上国に対する姿勢
 「大人になったら途上国を助けたい。」「先進国がもっと途上国のことを考えなくてはならない。」「それぞれの国が尊重し合うべきだと思った。」「『～してあげる』みたいな視線じゃいけない。」

【所感】

2時間目は、観光客のような視点からモンゴルを見るのではなく、途上国と我々の生活を結びつけて考える授業を行った。特に経済発展の功罪とエネルギー問題に目を向けてもらうことをねらいとした。限られた時間の中で、取り上げたい内容が多く、一方的に語る時間が多くなってしまったが、生徒たちは真剣に考えてくれたようである。途上国のニュースやエネルギー問題に関心を持つきっかけになってくれればと思う。また、モンゴルで活躍する日本人の方の言葉を通して、途上国に対する敬意や謙虚に学ぶ姿勢をもつことの大切さを感じ取ってもらうことができたのではないと思う。

授業実践を終えて(成果と課題)

マスメディアを通じた情報では、先進国の言語・文化に触れることが多く、また、学校における国際交流活動は、楽しい経験で終わってしまうことがほとんどである。今回、途上国について学ぶ時間を取れたことは生徒にとって有意義であったと思う。当たり前になっている自分たちの暮らしについて、新たな目線で見直す機会となったのではないだろうか。しかし、生徒の感想の中には、「日本で良かった」「怖いと思った」などの言葉も見られ、途上国の課題について考える際には、ネガティブなイメージに偏らないように注意をしなければならぬと改めて感じた。また、講義形式ではなく、ワークショップを通じて生徒自身の気づきを促し、考えを深める授業が理想であるが、高校のカリキュラムの中で時間確保をどう実現するかは課題である。さらに、単発的な学習ではなく、関心・学びを持続・発展させながら、行動変容につなげていくための指導を考えていかなくてはならない。異文化を尊重する心を養い、地球的課題の解決に向けて行動できる若者の育成を目指していきたい。

資料

資料1 ワークシート

_____年 H No. ()

モンゴル 特別授業 ワークシート

1. モンゴルと聞いて、どのようなことをイメージしますか。また、どのようなことを知っていますか。
2. モンゴルの位置・大きさは？地図を描いてみよう。(日本も入れて)
3. モンゴルの気候・風土は？
4. モンゴルの言語は？

5. モンゴルの政治・経済は？
6. モンゴルの産業は？
7. モンゴルの住居はどのようなものだと思いますか。(イラストも描いてみよう)
8. モンゴルの食事は？
9. モンゴルの人の服装はどのようなものだと思いますか。(イラストも描いてみよう)
10. モンゴルの学校は？

～授業後の感想～

資料2 パワーポイント スライド

| | | |
|---|---|--|
| <p>モンゴルを通して考えよう 地球的課題-自分たちの生き方</p>  | <p>JICA四国 教師海外研修</p> <ul style="list-style-type: none"> 2012 7月29日-8月8日 約10日間 四国内の小・高の先生方が参加 目的:途上国の現状や国際協力の現場を知り、教育活動に活かす  | <p>主な訪問先</p> <p>現地JICA事務所 日本大使館 日本人墓地 私立・公立学校 児童福祉施設 廃棄物処理場 子どもキャンプ 国連事業 遊牧民ゲル</p>  |
| <p>JICAって何？</p> <p>国際協力機構 Japan International Cooperation Agency 独立行政法人(外務省所管) 政府開発援助(ODA)の一つ 開発途上地域の発展 国際協力の促進</p>  | <p>今日のねらい</p> <p>先生がモンゴルで見てきたこと・感じたことをきっかけにして 途上国の現状・地球的課題 について知る 量感を表現 について考える 自分たちのライフスタイル を見直す もっと『地球市民』になっていく！</p>  | <p>第I部 モンゴルってどんな国 ～事前アンケートに照らして～</p> <p>1. モンゴルのイメージは？</p> <p>「朝青龍」「モンゴル相撲」 「チンギス・ハーン」「フビライ・ハーン」 「遊牧民」「羊」 「内モンゴルとか中国との関係」</p> |
| <p>モンゴル国</p>  <p>「大草原の中の小屋」 朝陽、白毛の羊 人語、羊の叫び、 人語、羊の叫び、 人語、羊の叫び</p> | <p>モンゴル相撲</p>  <p>チンギス モンゴル帝国の 初代大汗(1162-1227) 世界最大の帝国を 築いた</p> | <p>チンギス・ハーン</p>  <p>国史館蔵</p> <p>この像は、ハーンに あやうく</p> |

和田 加
報告書 ①

大西 結加
報告書 ②

杉田 亮介
報告書 ③

曾根 健介
報告書 ④

池田 やよい
報告書 ⑤

今村 加代子
報告書 ⑥

山崎 功子
報告書 ⑦

石原 康代
報告書 ⑧

5畜

馬
羊
ヤギ
牛
ラクダ



2. モンゴルの気候・風土って？

「砂漠」「ゴビ砂漠」「乾燥」
「海がない」
「草原」「平地」や「山が多い」
「暑い」「暖かい」や「寒い」



気温

東京 夏 最高 31℃ 冬 最低 2.5℃
ウランバートル 夏 最高 30℃ 冬 最低 -33℃

年間降水量は 東京の4分の1

雨は少ないはずなのに・・・

・ 異常気象



モンゴルにおける環境変化

- ・ 砂漠化が進行 → 牧草地帯が減っている → 動物植物が減少
- ・ 森林伐採 → 保水力低下 → 河川・湖が干涸
- ・ 寒波(2010) → 家畜大量死 → その結果・・・?

3. モンゴルの政治・経済は？

「分かりません」
「開国」
「良くはなさそう」
白紙・・・

モンゴルの政治・経済

社会主義 → 市場経済
1990 民主化 複数政党制 市場経済に移行
連立内閣(2004-2007)

■ 経済成長率は2011年 世界第1位
■ 1日2ドル未満で暮らす人々 40パーセント

貧富の差 成り損ねが周りにたくさん
一方で「昔の方が良かった・・・」という人も

4. モンゴルの産業は？

「遊牧」・・・牛乳、羊毛
「繊維業」
「伝統的な服、アクセサリー」

主な産業

- 畜産業(遊牧)
- 鉱業 金、銅、石炭 レアアース 地下資源ブーム

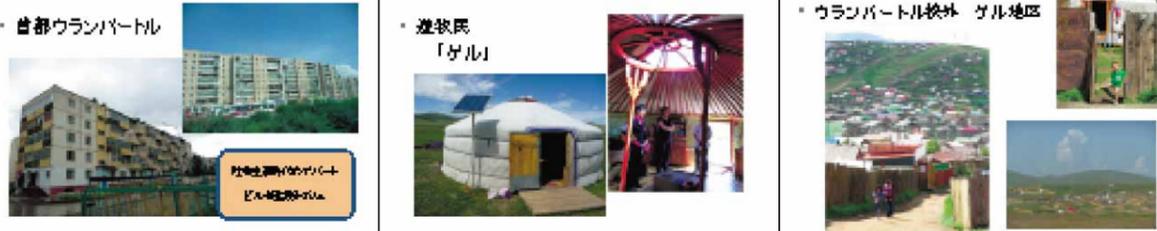
5. モンゴルの住居は？

「白い布で、移動できる」
「移動式」「テントみたい」

Mizu
Alari
Fumino

モンゴルの住居

- ・ 首都ウランバートル
- ・ 遊牧民「ゲル」
- ・ ウランバートル以外 ゲル地区



6. モンゴルの食事は？

「ミルクみたいなもの」
「穀物が中心」
「羊や肉をそのまま焼いたような肉」
「ヒリ辛で野菜や羊の肉を使っている」
「私たちと比べてもっと素材かな・・・」

モンゴルの食べ物

おもな食べ物① 「肉料理」・・・羊が中心
味付けは 塩
野菜はニンジン、じゃがいも、たまねぎは採れる



ゲルステイでの食事



モンゴルの食べ物

主な食べ物② 「乳製品」種類が豊富

ザハ(市場)のお店



ゲルでの乳製品



お魚は？

「お魚は...」



お土産に 魚の干物をあげたが・・・



7. モンゴルの服装は？

Mizu
Momo

伝統的衣装 デール



服装 ウランバートル



8. モンゴルの学校は？

「少人数制」
「笑顔あふれる」
「分かりません・・・」「白紙」

公立学校

- ・ 小中高 同じ学校
- ・ 担任の先生も卒業までずっと同じ
- ・ 先生は厳格がない
- ・ 先生が一方向的に教える講義形式
- ・ 基本は二学期・三学期もあり
- ・ 学校によって特色違う
- ・ 外国語教育 英語
- ・ 日本やアメリカの授業もある
- ・ 教育モットー 「モンゴル国のために・・・」と考える生徒を育てる

第97学校



第I部 終わり

モンゴルのことを少し知ることができましたか？

次は、テーマを絞って見てみましょう

第二部
モンゴルを通して考える
地球的課題・私たちの生き方

- ・ 途上国の抱える課題
- ・ インフラ整備(道路、空港、水道、電気など)
- ・ ゴミ
- ・ 物質主義
- ・ 教育
- ・ 貧富の差
- ・ 心身の健康
- ・ 伝統 と 経済発展 のバランス
- ・ 本当の豊かさって？

和田 加
報告書 ①
大西 結加
報告書 ②
杉田 亮介
報告書 ③
曾根 健介
報告書 ④
池田 やよい
報告書 ⑤
今村 加代子
報告書 ⑥
山崎 功子
報告書 ⑦
石原 康代
報告書 ⑧

